◇岩手日日　令和４年６月１日（水）

ＳＤＧｓ 身近な存在に

水沢工高機械科３年

６人が課題研究開始

空き缶再利用キーホルダー制作 講師迎え学習

奥州

地元の鋳物業者、認定こども園と結び付きを深めながら国連の「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」を身近で分かりやすく普及させたい、という奥州市の県立水沢工業高校機械科３年生による課題研究「ＳＤＧｓキーホルダーを作ろう！」の活動が始まった。取り組むのは６人の生徒で、31日には開始に当たって同市生活環境課、奥州めぐみネットの関係者の講義を聴いてＳＤＧｓについて学び、今後の活動に向けたイメージを膨らませた。

ＳＤＧｓについて学ぶ水沢工高機械科３年生の課題研究「ＳＤＧｓキーホルダーを作ろう！」のメンバー

同校では、それぞれの専門を生かした課題研究に取り組んでいる。数人グループでの活動となるが、「ＳＤＧｓキーホルダー！…」では６人の生徒が鋳造技術を生かしてキーホルダーを作る。

原料を考える中で空き缶（アルミ）をリサイクルすることにし、「リサイクルといえば最近よく聞くＳＤＧｓってなんだろう」「ＳＤＧｓのロゴをデザインしたキーホルダーにして園児にプレゼント」「作るだけでなくＳＤＧｓを園児たちにも伝えたい」と思いを巡らせて、今回の課題研究のテーマと内容を固めた。

同日は、市内でＳＤＧｓの普及に取り組んでいる同ネットの若生和江代表、奥州版ＳＤＧｓ作成にも関わった市生活環境課の大内守人係長を講師に招いた。若生代表は「自分が一番伝えたいことは何かを考えることが大事」とし、「こども園にプレゼントを届けようというのは素晴らしい取り組みだ」と語った。

大内係長は「ＳＤＧｓと自分との距離を縮めよう」と呼び掛けた上で、一つの物事にさまざまな目的を持った人たちが関わり合って強い推進力を生み出す「ゴール間のマルチベネフィット」の考え方がＳＤＧｓの特徴の一つと紹介。取り組みを進めていく中で▽自分たちの興味、知識や技術を生かしているか▽情報発信はできているか－などを確認していくようアドバイスした。

講義の後、２人の講師の指導でカードゲームや鋳物を使った調理にも挑戦。ＳＤＧｓや地場産業への理解を深めた。

初回の講義を受け、リーダーの菊地駿太さん（17）は「キーホルダーを作るだけでなく、子供たちに授業で教えたい。それが家族にも広まっていったらいい。ＳＤＧｓをさらに勉強し、身近で分かりやすいものとして普及させたいと思っている」と抱負を語った。

グループの計画によると、夏までデザインを考えて試作を重ねるとともに、認定こども園「稲瀬わかば園」（同市江刺）の協力を得て材料となるアルミ缶を回収。秋から量産し、12月には同園で出前授業と作品提供を行う。制作方法については同市鋳物工業協同組合に協力を依頼しており、鋳物企業を訪問して学ぶ考えだ。

「ＳＤＧｓキーホルダー…」の取り組みの様子は、同校の魅力を発掘して紹介する課題研究「水工魅力化研究」の６人が取材し、ドキュメンタリー動画を作成するという。

活動開始に当たり、講師を招いて行われた学習会